

# 日本カウンセリング普及協会 認定心理カウンセラー

自分の心と会話し、変化するきっかけを  
つかんでもらう、提案者としての資格

取材・文／神門駿兵 構成／小林編集事務所  
撮影／徳田貴久



小森純子さん(37歳)

06年、資格取得。08年に埼玉県さいたま市で心理カウンセリンググループ「心の森のカウンセリング」を起業。主に埼玉県を拠点に活動中。

**違う環境を知ることで  
自分の傾向や本心を  
実感することができた**

子どもが好きだったことから、短大では幼児教育を学び、幼稚園教諭として就職した小森純子さん。右脳開発・鼓笛指導に力を入れて、幼稚園で、約4年間、保育にあたっていました。ただ、中学生の頃からの夢は「独立」すること。自分の力を試したこと、ベンチャー企業に転職、新規事業開発を担当し、マーケティングリサーチから物件開発・飲食店立ち上げまで携わった。期待通り、経営のノ

ウハウを学べたが、連日朝から深夜まで忙しく、心身ともにつらいことも多かった。「新天地で、人から認められたい気持ちが強過ぎる自分に気づきました。また、自分を慕ってくれる子どもが好きで、パワーをもらえることも再確認しました」

**「経営革新」の承認も取得。  
カウンセリングをより  
幅広い分野へと発信中**

その後、保育士に転職。子ども達のなかに未来へ生きるエネルギーを発信

ギーを感じながら、働くお母さんの代わりを約5年間務めた。「人の成長に幼児期がいかに重要なか、大人になってどんな影響を与えているかを考えようになりました」。

心理学への興味が芽生え、スクールへ資格取得後、08年春、カウンセリングルームを開業。埼玉県教育委員会の教育相談員と並行して活動中だ。10年春には、うつ病や不登校になつてからでは遅いという思いから発案した「人を育てる立場にある人こそ知つて欲しい」と上司や親に対するセミナー事業計画」を基に、中小企業

庁が支援する経営革新計画に申請を行い、承認を取得。経営者クラブや学校でセミナーを開催している。「過去と他人は変えられない。変えられるのは未来と自分だけ」をモットーに「生きづらさを生きやすさに変える」きっかけを提供する。

心理学の資格で「独立」の夢を実現した小森さん。日本ではまだ敷居が高い心理カウンセリングの扉を、もっと気軽に開けるように工夫していくといきたいと、さらなる夢を語る。



お客様を大事にしたいという思いを伝えるため、カウンセリング前にはハーブ茶をお出しします」と小森さん。リラックス効果も高い。

誰もが気軽に、積極的に  
出入りできるような、  
心理カウンセリングの  
新しいドアを作つていきた

## 日本カウンセリング普及協会 認定心理カウンセラーをCheck

### どんな資格?

心理カウンセラーとしての  
知識と技能を認定

相談者が安心して心理カウンセリングを受けられるよう活動する日本カウンセリング普及協会が、心理カウンセラーとしての資質と知識・技能を認定。資格は1級・2級がある。ストレス社会の今、企業や学校などを中心に、ニーズが急増している。

### どう学ぶ?

協会指定の講座を修了し、  
筆記・実技の試験に挑む

2級は、協会指定の日本総合カウンセリング付属日本心理カウンセラーセンス院が行う養成講座(前期・後期全40回)で学ぶ。1級はさらに、同学院の実践講座(全10回)を修了する。資格取得には、いずれも筆記と実技の試験に合格することが必要。

### どう稼ぐ?

資格取得後は、企業・団体のほか、独立開業の道もある

取得後の活躍の場は、企業や学校のカウンセリング室など。自分のカウンセリングルームを開く道もある。アートセラピー(絵画療法)やエゴグラム(自我状態)を使った交流分析などの心理療法を活用することで、講座の開講など、さらに可能性を広げられる。